

令和5年度第2回埼玉県南西部地域医療構想調整会議
議事録

1 日 時

令和5年11月28日（火）18:00～19:00

2 場 所

オンライン（ZOOM）

3 出席者

【委員】 19名

井上達夫委員（会長）、滝澤義和委員（副会長）、野入聡悟委員、小柳聡委員、大八木実委員、細田泰雄委員、飯田惣授委員、鈴木義隆委員、菅野隆委員、富家隆樹委員、佐藤千春委員、増尾猛委員、近藤政雄委員、斎藤幸子委員（代理出席）、平野静香委員、鈴木貴久委員、皆川恒晴委員、池田康幸委員、湯尾明委員

【アドバイザー】

埼玉医科大学医学部 特任教授 小野寺 亘氏

【事務局】

保健医療政策課職員、医療整備課職員、医療人材課職員、高齢者福祉課職員、朝霞保健所職員

【傍聴人】

3名

4 議事

（1）資料6「令和5年度第2回埼玉県地域医療構想推進会議 主な意見・質問」により保健医療政策課から説明。
委員から質問等はなかった。

（2）議事1「令和4年度病床機能報告・外来機能報告結果について」
資料1-1～4、参考資料1-1、2により保健医療政策課から説明。
委員から質問等はなかった。

（3）議事2「病床整備の進捗状況について」
資料2-1により医療整備課から説明。
委員から質問等はなかった。

○病床整備の進捗状況について関係病院より説明。

ア TMGあさか医療センター
資料2-2により説明。
委員から質問等はなかった。

イ 塩味病院

資料2-3により説明。
委員から質問等はなかった。

ウ 富家病院

資料2-4により説明。
委員から質問等はなかった。

(4) 議事3「医療機関対応方針の協議・検証について」

資料3-1、2により保健医療政策課から説明。

(質問) 保健医療政策課

急性期・回復期の病院から回復期病床について現場の声をお聞きしたい。

(回答) 井上委員 回復期病床の不足は現場では感じられない。

(回答) 富家委員 回復期病床の不足は現場では感じられない。

回復期の中でも地域包括ケア病床の必要性を感じており、
回復期リハビリテーションについてはむしろ過剰感がある。

(5) 議事4「医師の働き方改革に係る特例水準について」

資料4により医療人材課から説明。

委員から質問等はなかった。

(6) 議事5「地域保健医療計画及び介護保険事業（支援）計画における在宅医療・介護サービス等の追加的需要について」

資料5-1、2により高齢者福祉課から説明。

委員から質問等はなかった。

(7) 議事6「その他」

その他の議題、全体を通しての委員からの質問はなかった。

○ アドバイザーからの意見

議事1の「令和4年度病床機能報告結果について」、他の圏域の調整会議では医療機関によって病床報告の仕方が分からず、不明瞭のまま報告しているものがあるのではないかとの意見があったため、引き続き県には分かりやすい物差しの提示をお願いしたい。

議事4の「医師の働き方改革に係る特例水準の指定について」、南西部地域では特例水準指定予定医療機関として2病院がB水準の手続きを行っているとのことだが、地域医療構想推進会議では通常のA水準の病院に十分な目配せが必要ではないかとの意見があった。各病院におかれては、県の医療勤務環境改善支援センターを活用していただき、令和6年4月の制度開始に向けて遺漏なく対応をお願いしたい。

5 閉会